

節電の夏・みんなで守る環境講座

「楽しい非電化」 ～幸せ倍増・電力半減の方法～

7月14日(土),人権交流センターで「節電の夏・みんなで守る環境講座」を開催しました。講師は、発明家の藤村靖之さんです。73人の方が参加され、熱心に藤村さんのお話を聴かれました。

藤村さんは、私たちが日ごろ使用している電化製品の電力量について、原子力発電所1基で作られる電力を1GPと置き換えて、説明してくださいました。ちなみに、電気ポットの1年間の電力使用量は3GPだそうです！その他にも、藤村さんご自身が発明された非電化製品の紹介などを、ユーモアたっぷりにお話してくださいました。



アンケートより

・「節電 = 我慢」という意識がありました。工夫次第で楽しく非電化できることが分かりました。
・電気があるから幸せである。このことが疑問に思えるような講義でした。

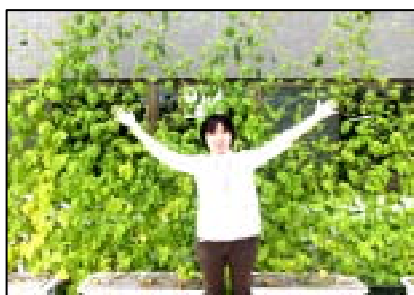
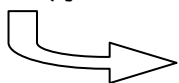


緑のカーテン成長記

沼隈支所の緑のカーテンがどんどん成長しています！現在、支所の2階まで伸びて、しっかりと日陰をつくってくれています。



6月



7月

じんけんは ひとりひとりの たからもの

青年の父

やまもとたきのすけ

山本瀧之助の足跡を訪ねて

【13】「足のある学校」の訓導兼校長

名古屋での全国青年大会を終えて帰ってきた瀧之助にひとつの転機がやってきた。

それは、阿武郡長より「新設の郡立実業補習学校の講師になってほしい」との依頼であった。20年以上も勤めた小学校を辞めることに未練もあったが、辞表を出し、1910年(明治43年)9月、実業補習学校講師となり、翌年には訓導兼校長辞令を受け、いよいよ青年教育に全力を傾けることになった。

この学校は、デンマークの巡回学校にヒントを得て阿武郡長が考案したもので、独自の校舎を持たず、郡内の小学校の教室を借り、夜間に青年のための授業を行う巡回学校で、「足のある学校」とも呼ばれた。修業年限は6週間であったが、農閑期に巡回するため、1町村では1年間に1週間程度で全部修了するには6ヶ年必要であった。

授業内容は、修身・農業・その他であった。修身は公民教育で、1916年(大正5年)より瀧之助編の『町村自治要義』をテキストにした。農業は産業教育で、農業技術の指導を行った。その他、有識者を講師に招き、教養を高める内容のものであった。

1年間1週間程度の受講の間を埋めるため、折々に講習会の開催や印刷物(『親と月夜』の本)の配布、巡回文庫の図書の見学、巡回日記(1ヶ月間で一巡し、読んだ人が感想を書く欄がある)などの工夫がなされた。この実業補習学校は1921年(大正10年)3月まで続けられ、やがて山南小学校の校舎の一部を使用し、修業2年間の郡立高等実業補習学校となった。これが、現在の沼南高等学校の前身の学校である。

執筆：上田 靖士(山本瀧之助研究会)